

静岡県民俗学会会報 192号

<http://web.thn.jp/s-folklore>

2024年9月1日発行

静岡県民俗学会 〒424-0053

静岡市清水区渋川1-9-6-101

✉ s-folklore@fujitnc.ne.jp

振替口座 : 00850-5-10438

富士山の一夜酒

松田 香代子

富士山の甘酒

今年も富士山は7月1日に山梨県側で、7月10日に静岡県側で山開きが行われ、夏山シーズンには多くの登山者が山頂をめざした。富士山の「夏山」とは、山開きから山仕舞いまでの登山期間をいう。残念なことに、今年は山開き前から富士山の遭難が絶えず、夏山に入っても死者が出たり、救急搬送されたりというニュースが続いていた。

中世から多くの登拝者を迎えてきた信仰の山富士山では、ムロ（室）と呼ばれる休泊小屋が設置されていた。室は石室または山室ともいい、外壁や屋根を富士山の溶岩で覆った小屋で、暴風雨や夏でも氷点下になる厳しい気象条件の富士山での緊急避難小屋の役割も担っている。とくに、江戸方面からの登拝者が急増した富士山吉田口（北口）登山道では多くの室が設けられ、山稼ぎは主要な生業であった。

そして、室で必ずと言っていいほど用意されているのが「甘酒」である。甘酒は下から運ぶというよりも現地で作ることが多い。北口登山道の室の甘酒は、粥を炊き、麴を入れてかき混ぜ、発酵してくると瓶に移して暗い食料貯蔵庫に寝かせて作る。一晩でできるためイチャガキ（一夜掻き）といい、少し薄めて販売していたという（『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書二-本文編-』93頁、2016年）（写真1）。なお、富士山頂付近は標高が高く寒冷なため、粥を炊くにしても圧力をかけて炊くことが必須であり、かなり温めないと糖化も進まない。

富士山頂には、吉田口に金明水、須山口に銀明水という湧水があり、徳利や樽などに汲んで持ち帰り、

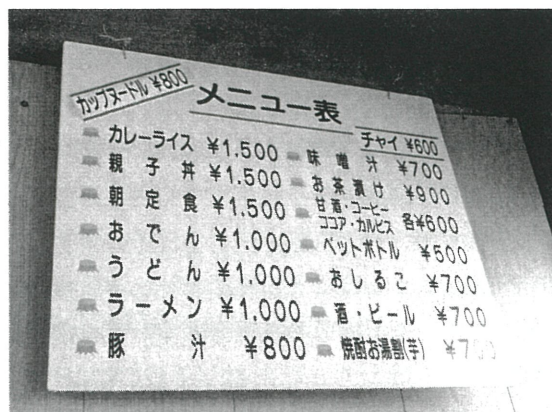


写真1 山小屋のお食事メニュー



写真2 銀明水

霊験あらたかな水は薬としても用いられた。とくに、金明水は江戸を中心とする富士講が「御山水」として尊んだ。富士講では、御身抜という開祖長谷川角行の言葉を記した掛軸を本尊としてまつが、その文字は御山水を用いた墨で書かれた。また、銀明水は日照りでも涸れることがないとされ、「富士山上神水」として京都の仙洞御所や岩倉家などの公家に献上された（写真2）。

鈴木雅史氏は『富士山頂上の歴史』（2015年）で、現愛知県知多市の小島茂兵衛信英が富士山に登った